

【教育目標（目指す児童像）】

・かしこい子 ・やさしい子 ・たくましい子

【目指す学校像】

学びと笑顔、元気あふれる学校



【3つのキーワード】

重なるの協調 柔軟な捉え方

愉快地に楽しく

とがさきっ子の木

校長 渡部 順一

《ジョハリの窓》

	自分に分かっている	自分に分かっていない
他人に分かっている	I 開放の窓 「公開された自己」 (open self)	II 盲点の窓 「自分は気がついていないものの他人からは見られている自己」 (blind self)
他人に分かっていない	III 秘密の窓 「隠された自己」 (hidden self)	IV 未知の窓 「誰からもまだ知られていない自己」 (unknown self)

いくつになっても、何かしら認められたり褒められたりすると、うれしいものです。次もがんばろうと、やる気も出てきます。

戸ヶ崎小学校では、「とがさきっ子の木」という活動に取り組んでいます。これは、友達のよいところを見つけて伝え合い、掲示して学校全体に広める活動のことです。

掲示されたものを読んでみると、「よく見ているな、わかってくれてるな」と、感心することばかりです。うれしくなります。

ここで「ジョハリの窓」という、自己分析を行う心理学モデルをご紹介します。

右の図をご覧ください。自分が知っている自分は、Ⅰ「開放の窓」とⅢ「秘密の窓」

です。先ほどの「とがさきっ子の木」で、Ⅱの盲点の窓の一部を知ることができます。この部分を知ることによって、自分では気が付かなかった、新たなよさを発揮できるようになります

そして、是非子供たちに挑戦してほしいことがあります。Ⅳの「未知の窓」を探す努力です。誰にも知られていないこの部分には、才能が眠っている可能性が高いからです。

では、どうすればいいのか。それは、何か新たなことに一歩踏み出し挑戦することです。

例えば、いつもの授業で思い切って手を挙げて自分の考えを発言する、こんなことと思っても勇気を出して質問してみる、林間修学旅行でグループリーダーに立候補する、陸上大会でやってみたい運動種目にエントリーして全力で練習する、落ちているごみを拾ってみる……。

今までにできなかったこと、やってみたいのに避けてきたこと、やるべきことなのにうやむやにしていること、このようなことに覚悟を決めて挑戦することです。辛い経験になるかもしれませんが、この経験は未来に必ず生きてきます。今まで知らなかった自分が見えてきます。

5月下旬には、個人面談も予定されています。短い時間となりますが、お子様の健やかな成長に向けて話し合い、よい面を伸ばすよりよい取組を一緒に考えられればと思います。

照れくさいかもしれませんが、面談の内容を子供たちにもしっかりと伝えてください。保護者の皆さんの温かい言葉が、お子さんの自信につながり、やる気に火を灯すこと請け合いです。